

様式第 1 号

会 議 録

会議の名称	令和7年度所沢市総合教育会議
開催日時	令和7年12月25日(木) 午前10時00分から午前11時00分まで
開催場所	所沢市役所 高層棟7階 研修室
出席者の氏名	所沢市長 小野塚 勝俊 教育長 岩間 健一 教育長職務代理者 平塚 俊夫 教育委員 北野 大 教育委員 村山 こず恵 教育委員 宮下 広子
欠席者の氏名	なし
説明者の職・氏名	なし
議題	(1)所沢市の教育について(教育施策における課題) (2)その他
会議資料	・令和7年度所沢市総合教育会議 次第 ・令和7年度所沢市総合教育会議 出席者名簿
担当部課名	経営企画部 : 鈴木部長、並木次長 教育総務部 : 池田部長、三上次長、川島教育総務課長 学校教育部 : 中田部長、吉川次長、伊東学校教育担当参事 (事務局) 企画総務課 : 細淵課長、渡邊主幹、松永主査 電話 04(2998)9046

発言者	内容審議の内容(審議経過・決定事項等)
開会	[議長である小野塚市長の進行により議事が進められた]
議長	<p>今回の総合教育会議は、教育委員に所沢市の教育について、その現状や課題を共有したく、開催したもの。</p> <p>この会議は、市長と教育委員会の連携強化等を目的として、教育行政について協議・調整を図る場である。自由に忌憚のない意見をいただきたい。</p>
事務局	<p>総合教育会議の概要を改めて説明する。</p> <p>[総合教育会議についての説明]</p> <p>総合教育会議は、平成27年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」により、全自治体に設置が義務付けられたもの。</p> <p>構成員は、地方公共団体の首長である市長と、教育長及び教育委員。</p> <p>この会議において、市長と教育委員会が教育に関する政策の方向性について協議・調整することにより、地域の教育の課題やあるべき姿を共有し、より一層市民の意見や考えを反映した教育行政の推進を図ることが目的である。</p>
議長	<p>議題(1)「所沢市の教育に関する意見交換」</p> <p>今回の会議の主旨は、教育委員より、所沢市の教育に対する考えや意見などを伺いたいというもの。</p> <p>教育委員という重要な職を担っている立場から、所沢市の教育について課題として感じていることや、教育委員になる前と後で考え方や捉え方が変わった点、「今後こうしていけば所沢市の教育はより良くなるのでは」など、ご自身の想いやお考えを忌憚なくいただきたい。</p> <p>配布資料の名簿順にお話しいただきたいと思うが、教育長は最後をお願いします。初めに、平塚教育長職務代理者よりお願いします。</p>
平塚教育長職務代理者	<p>今日はクリスマス、この時期、家の中や街中に子どもたちの笑顔が溢れていると感じる。やっぱり子どもたちの笑顔が増えると、本当に幸せな気持ちになる。地域の方に恵まれていて、寒い中だが、温かい思いに日々支えられていると感じている。</p> <p>この気持ちを表現しようと、「寒いねと 掛け合う声の 温かさ」という俳句を詠んだ。お互いの立場や状況を思いやる心遣いを感じられる。地域の方の温かい思いは、防災や防犯など緊急時における支え合う力として現れるのではないかと思う。</p> <p>助け合う力が最も優れたものであるという考えにも共感する。行政や教育も共助の精神を大切に、人間や地域をつくるべく機能することが必要である。</p> <p>長年の教職人生と、現在の地域での生活から、2つのことが推進されるべきだと考えている。一つ目に、顔の見える人間関係作りを進めること。二つ目に、学校や地域の課題について、気づく、関わる、つなぐ、を意識した行動が広がっていくことである。所沢市民憲章や第3次所沢市教育振興基本計画に掲げる基本理念は原点になると思う。</p> <p>教育振興基本計画の基本理念でいえば、心身のたくましさ、未来を拓く知恵、ふる</p>

	<p>さと所沢を愛する心、というそれぞれが備え持っている三つの宝を掘り起こし、大きく育てていくことが根幹になると考えている。</p> <p>所沢で生まれ育った人や生活している人々がやがては所沢に戻ってきて地域を作り支える人材となることは非常に重要だと思う。</p> <p>ふるさと所沢を愛する心を育て、郷土愛を育むことをコンセプトに、全ての行政活動や教育活動が展開される配慮がなされるべきである。それにより所沢という文化都市が、市民一人一人にとって素晴らしい街に成長していくと考える。</p> <p>「ふるさと」はふるさとを離れてその良さに気づき、ふるさとを失ってその価値に気づくと言われる。私自身が教育委員として意識しているのは、子どもたちの笑顔が増えること、また、保護者や地域の方の笑顔も増えることはもちろんのこと、郷土愛が深まることである。</p> <p>現在の教育施策はどの領域も意欲的に展開されているが、小中学校の統廃合の問題については、今後必ず進めていく時期が来ると思う。その時には、市長部局と教育委員会が連携し、知恵を出し合い、協力しながら着実に進める必要がある。進め方について議論を始めていく必要がある。</p> <p>また、教育の不易と流行のバランスについても考えている。国は、思考力や判断力を育成するために主体的で対話的な深い学びを求めているが、実際にどうなっているか。特に、GIGAスクール構想でタブレットが配布され教育現場で活用されているが、指導者や研究者の中には効果を疑問視している声もある。</p> <p>未来への展望を考えたとき、ICTは欠かせないが、思考力等の育成の面においては課題がある。この不易と流行のバランスを考える必要があるが、新たな予算をかけることなく、教員の意識を変えていくことで進められることも多い。少しでも子どもたちの未来を切り拓く力の育成に寄与できるよう、教育活動を進めていきたいと思っている。</p> <p>不易と流行の解釈について考えを述べる。相反する概念ではなく、不易は流行を吸収することにより、不易をより強固なものとし、流行は時代の新風をもって不易の永遠性を担保する機能を有する概念と捉えている。流行がありその中で良いものが残っていく。併せて、多様性を求めるが不易を忘れない姿勢も教育には大切な留意点と考えている。</p> <p>以上である。発言の機会に感謝する。</p>
北野委員	<p>私は、人材こそが日本の資源であると考えている。人間を「人材」にするには教育が必要である。江戸時代における藩校、寺子屋が象徴しているように、教育の充実が、開国して世界に追いつき、追い越すまでに至った日本の発展の大事な基礎となっていると考えている。近年では、通信制高校に通う生徒数は全国で30万人、10人に1人となっている。多様性が問われている大きな社会の流れを理解し、日本の教育も再構築が必要だと思う。</p> <p>今後、限られた予算でこれらの課題にどのように対応していくか考えていく必要がある。中でも、貧困の連鎖はくい止めなければならない。そのために何をするかというと、ボランティア活動が重要だと思う。学生がボランティアをすることは意義があると感じており、教えることによって学生自身も自分の理解を深める機会となる。教員不</p>

	<p>足の課題に対しても、学生にとって教員は素晴らしい仕事だと感じてもらうことが必要である。ボランティアといっても、それに対する対価をしっかりと支払える仕組みが必要だ。</p> <p>近年の理科系離れについて、理科系分野においては、結果を教えることに重点があった。大事なことは、結果を導く「プロセス」である。所沢市で何の理科系の教育をやっていくか、航空発祥の地であることを踏まえ、航空関係で所沢の特色を出していくというのはどうか。結果を導き出す楽しさを伝えていくことが大切である。</p> <p>学力偏重の風潮がある中、達成感を感じ、自信を持ってもらうことが大切である。得意不得意は皆それぞれあるが、得意な分野でいかにそこを伸ばし、自信を持ってもらうか。豊富かつ高度な経験をもった先生方はたくさんいる。定年を迎えられた方など人材として活かしていくことが必要ではないか。すでに、江戸川区などでは、地域におられる経験者を活用し、教育の質を高めている自治体もある。</p> <p>最後に、ICTについて。人間同士のふれあいが教育であって、ICTはあくまで補完的なものであるべきだと考えている。ICTに任せてはいけない。教育の基本は、学ぶ人と教える人、人と人の触れ合いである。</p> <p>以上が私の考えである。発言の機会に感謝する。</p>
村山委員	<p>学校現場と保護者の双方に関わる立場から、不登校の予防や回復の支援を点ではなく線で捉えることについてお話ししたい。子どもを途中で取り残さない支援を実現するためには、早期準備、家庭支援、環境整備という三つの柱が必要だと考える。</p> <p>まず、5歳児健診について。5歳児健診は単なる健診の場ではない。3歳児健診では目立たなかった子どもの個性や特性に対して、就学への不安を準備に換える重要な機会となる。保護者は、どこに相談したらいいのかわからない不安を抱えている。学校現場において、入学前に専門の方に話を聞いてもらえたことで、学校に相談する勇気が出たという声を多く耳にする。</p> <p>これまでは問題が起きてから対応する事後支援が中心だった。しかし、これだけ不登校が増加している今、求められているのは、入学前にリスクを予測し、環境を整える戦略型の支援だと考える。5歳児健診を起点に、保護者が自信を持って学校へ相談に行けるような情報整理の支援や円滑な相談体制の構築が必要である。保護者が我が子の個性や特性を正しく理解し、前向きな見通しを持って学校の門をくぐるよう、行政がその背中を支えることで、入学後に子どもが自信を持つことにつながり、早期の不登校予防となる。</p> <p>次に、登校が不安定になる時期の支援についても話したい。不登校になった子は、行ける日と行けない日が混在する時期がある。この時期における多くの負担を保護者が担っている。学校への送り迎えや付き添い、学校との細かな連絡が続くことで、保護者は精神的に追い詰められたり、離職を余儀なくされたりするケースもある。家庭の疲弊は、虐待や二次障害のリスクにも直結する。一方で、現在の多忙な学校現場では、担任の先生が家庭を一件一件フォローし続けるには限界がある。</p> <p>だからこそ、スクールソーシャルワーカーの役割が重要だと考える。スクールソーシャルワーカーは単なる連絡役ではない。家庭の困りごとをアセスメントし、福祉や医療へと繋ぐ専門家である。家庭訪問を行い、学校の外から家庭を支えることで、学校の</p>

	<p>先生方は授業や学級運営に専念できる。学校に来させることだけを目的とせず、社会との繋がりを果たすための柔軟な支援体制をぜひ行政主導で整えてほしい。</p> <p>最後に、学校のトイレの改修について話したい。これは単なる設備の老朽化対策ではなく、子どもの身体的な安心感を守るための不登校予防施策である。特に、不安傾向が強い子どもや感覚過敏がある子どもにとっては、暗い、臭う、音が響くといったトイレは恐怖や苦痛の場所になる。トイレに行きたくないから水分を取らず、我慢して体調を崩す子どもも見かける。これではどんなに魅力的な授業でも、学校は子どもにとって苦痛な場所になってしまう。</p> <p>不登校対策というと、特別な教育プログラムや相談室の充実に目が向きがちだが、実はこうした当たり前の生活環境が、登校への意欲を支える土台となる。明るく清潔なトイレを整備することは、「あなたの安心を大切にしている」という子どもへのメッセージになる。トイレ改修を進めることで、子どもが学校を避ける理由を一つ取り除くことができる。</p> <p>今日お伝えした三つは全て繋がっている。5歳児健診で気づき、環境を整える。登校が不安定な時期に家庭を支える。安心できる環境で登校を続ける。不登校対策は、学校だけの問題でも、家庭だけの問題でもない。教育と福祉が連動することで初めて子どもを途中で取り残さない支援が可能になる。誰もが安心して使えるトイレがあり、困ったときに家庭を支える専門家がいる。小さな安心の積み重ねが、すべての子どもにとっての居場所となる。</p> <p>子どもたちが繋がりを失わずに育っていけるよう、より前向きな所沢市の教育になっていくことを願っている。</p> <p>以上である。発言の機会に感謝する。</p>
宮下委員	<p>私は3人の娘を育てた母親として、これまでの経験から得たものを伝えたい。</p> <p>子ども会や、育成会、PTAやほうかごみなみ等の活動を通じて、多くの仲間や先輩、地域の方々から様々なことを教えてもらった。その中でも特に感じたのは、「子どもはみんな一緒だ」ということ、いっぱい遊んだ経験がある子どもたちは成長して良い大人になる。また、子どもたちの魅力に気づいたことで、私自身の人生が豊かになったと実感している。</p> <p>10月に教育委員として市長に挨拶した際、市民憲章にある「こどもは市の宝である 胸深く刻まれるふるさとを伝えよう」という言葉をいただいた。辞書において、「宝」とは、大切に扱われるべきものとある。子どもたちの存在そのもの、そして、命は大切にされるべきで、誰一人として欠けることなく、おじいさん、おばあさんになるまで健やかに生きてほしい。</p> <p>また、「ふるさと」という言葉も辞書で調べた。自分の生まれた土地とある。私はその意味のほかに、子どもの時間そのものであると思う。八国山でウサギを追いかけたり、柳瀬川で小鮒を釣った経験がなくとも、子どもの時代を過ごした時の流れそのものが、誰にとっても忘れがたきふるさとだと思う。子どもたちが大人になった時、「私のふるさは所沢」と誇らしく言えるとしたら、戻れない子どもの時間を子どもらしく、いっぱい遊んで、いっぱい学んで精一杯生きてこそだと思う。そのために、大人ができることを考えていきたい。</p>

	<p>読書に関して、二つの話をする。一つ目は、以前に読んだ志賀直哉の『暗夜行路』という本である。夫はこの本を学生の頃に読んだとのことだが、彼がすぐに主人公の名前を思い出して驚いた。主人公は誰か、検索して答える人と記憶で答える人の大きな違いがある。若い頃に様々な本を読んだり、学んだり身につけたことの積み重ねが、その人らしさを作っていくのは確かなことだと思う。</p> <p>二つ目は、現在読んでいる『盤上の向日葵』という本の内容だ。知らないことがわかるその楽しさを知らないなんて、人生の喜びの半分以上を捨てているようなもの。本は、知らない場所に連れて行ってくれたり、地球の裏側にいる人の話も聞くことができる。過去や未来の人とも会え、とんでもない冒険にも巡り合える。知ることの喜び、本の楽しさは、いつの時代も子どもたちに伝えたいことである。</p> <p>最後に、「ほうかごみなみ通信」に掲載された「音読のすすめ」について。子どもたちが国語や算数の宿題をやり終えて音読はお母さんにきいてもらう、と話す姿を見ながら、娘達の小学生時代を思い出す。音読の宿題の存在に感謝している。音読の時間は昼の時間離れていた親子の心を一つにしてくれる大切な時間だった。そして、話の世界と一緒に旅することができる貴重な瞬間を与えてくれていた。この音読という宿題をずっと続けてもらいたいと思っている。</p> <p>子どもたちの小学校時代、中学生時代、その先の人生において、いつも色々な本が親友のように近くにいてもらいたいと願っている。</p> <p>以上である。発言の機会に感謝する。</p>
教育長	<p>所沢市では、「こどもは市の宝である」と掲げて、こどもを中心としたまちづくりを進めている。若い世代の方々が安心して暮らせる環境作りが必要であり、全ての子どもたちの幸せを第一に考え、地域全体で子どもの成長を見守ることが大事だということを、市長と共有する機会が多くある。そうしたまちづくりを進める中で、福祉や子育て支援といった様々な施策を踏まえても、教育の果たす役割は重要であると考えており、しっかりその任務を果たしていかなければならないと強く思っている。</p> <p>また、中核市移行に向けた準備が進む中、様々なことが大きく変わっていく過程において、質が低下するようなことがあってはいけない。更なる教育の質の向上を図っていく。予算や人材の制約が予測される中で、将来にわたって質の高い教育を維持・向上させていくには、選択と集中が不可避である。例えば、小中学校の統廃合も選択肢に入る可能性があるだろう。</p> <p>次に、教育に話を寄せるが、第3次所沢市教育振興基本計画の基本理念、これは教育大綱に位置付けているものであるが、「みんなが持っている三つの宝を掘り起こして」という言葉をとても大事に思う。これは、まさに所沢市が子ども観をしっかりと捉えた言葉である。子どもはもともと学びたいという気持ちを持っている能動的な学習者である。自ら宝を育んでいく力を持っている存在。私自身の教育観と合致している。周囲の大人が、未来を拓く知恵や、ふるさと所沢に愛着を持つための環境を整え、提供することが重要である。</p> <p>教育委員会は、学校教育と社会教育の双方をバランスよく進めるべきである。学校教育においては、全ての子どもが未来を幸せに生きられる力を育むこと、また、社会教育においては、市民が心豊かに暮らせる文化を醸成することが目的である。</p>

	<p>学校教育は、主体的で対話的な深い学びを実現することで、質の高い教育を維持し、向上させていく取り組みが期待されている。学習指導要領では、子どもたちがこれから生きていくためには生涯にわたって能動的に学び続けることが重要とされている。また、各学校は創意工夫をもって児童や学校、地域の実態に即した教育課程を編成していくことが必要であり、教育委員会は学校の主体的な取り組みを支援することが重要とされている。所沢市は、各学校の特色や主体性を尊重し活かしてきた経緯がある。各学校は自分たちでより良い教育を作っていくんだという誇りがあった。次期学習指導要領においては、各学校に任される部分が一層増えていくだろう。所沢市はある意味先取りをしてきた。このような所沢市の進め方を大切に守っていきたいと考えている。</p> <p>最後に、社会教育について、所沢市には学ぶ意欲が高い市民がたくさんいる。知識や教養を持つ市民の存在は知的な財産である。既存のあらゆるものを集約し、知の拠点をつくるなど、大きな予算を伴わずに教育の質の向上を図っていく方策を考えていきたい。</p> <p>以上である。発言の機会に感謝する。</p>
議長	<p>各教育委員より様々な考え・意見をいただいたが、他に何か意見や感想などあるか。</p> <p>本市の教育の課題については、課題の解決につながる取組を出来る限り検討していきたい。</p>
教育長	<p>平塚委員からの発言にあった、不易と流行について考えることは教育施策を進めるにあたって重要なことであると考えている。不易の部分、いつの時代、どの国でも変わらない、豊かな言葉や表現、人権の意識などといったものを大切にすると同時に、新しいものを積極的に取り入れていく。</p> <p>不易を忘れた流行はありえない。決して、保守的な姿勢でいればいいというものではなく、バランスが大事だと思っている。同じ思いを持っていることが理解できて良かった。</p>
議長	<p>所沢市の教育に対する想いを十分に感じる事ができた。複雑・多様化する教育課題の解決につながる提案もあったため、今後の市政運営の参考とさせていただきたい。</p> <p>議題(2)「その他」</p> <p>教育委員、事務局から「その他」として何かあるか。</p>
事務局	<p>この会議は、来年度以降も開催させていただきたいと考えている。</p> <p>開催時期や議題について、議長から提案などはあるか。</p>
議長	<p>来年度以降の開催時期と議題については、教育委員会と調整し決定したいと考えている。</p> <p>本日は貴重な意見に感謝する。次回もよろしくお願いしたい。</p> <p>それでは進行を事務局に返す。</p>
事務局	<p>以上で令和7年度所沢市総合教育会議を終了する。</p>